

利根・沼田の教育

発行所 利根教育事務所
 発行人 所長 富田 孝
 〒 378-0031 沼田市薄根町 4412 番地
 TEL 0278-23-0165 FAX 0278-23-0180
 E-mail : tonekyou@pref.gunma.lg.jp

「児童生徒の1人1台端末（ICT端末）」のこの一年、そしてこれから

利根教育事務所 管理主監 角田 義行

「先生、提出しておきました。」「ありがとう、よく見ておくれ。」

このような子どもと教師のやりとりが、授業の終わりに聞こえてきました。昨年度までであれば、「授業の振り返り」の文章を書いた児童生徒がノートを教卓に提出し、教師がそのノートの山を職員室に持って帰ってじっくりと読む場面が想像できました。しかし、今年度は・・・。

ICT 端末の活用によって授業風景は一変しました。社会科の授業で、時代の変化を読み取らせるために、2つの時代の様子を比較して何が起こったか考えさせることがあります。令和2年度と3年度の授業風景を数十年後に比較する日も来るのではないのでしょうか。昨年度末の段階では、教師が ICT 端末の活用を踏まえて授業を組み立て、その流れに沿って児童生徒が当たり前のように使って授業が進んでいくことをあまり想像できませんでした。ところが、コロナ禍で実施できた春の学校訪問では、早速 ICT 端末を活用した授業を参観でき、更に秋の訪問では、代表授業をはじめとする多くの授業で活用している様子を参観しました。教師のみなさんの向上心や使命感によって、ICT 端末が、まさに文房具の一つになりつつあります。

ICT 端末の指導事例や活用方法などは、文部科学省の StuDX や、県教委の「はばプラⅡ ICT活用 Version」などに載っています。そこには、教科等の特質を踏まえた使い方と、すべての教科等に共通する使い方があります。共通する使い方の一例として、児童生徒の考えを交流する場面があります。ワークシートに書いた自分の考えを写真に撮って送ったり、ワープロ機能を使って打ち込んだ文書を送ったりします。その後、クラス全員の考えが教師のコンピュータに集約され、大型画面に映し出されたり児童生徒の ICT 端末上で見られたりする中で意見交換が行われます。すでに多くの方が実践されており、今まで挙手できなかった児童生徒が、自分の考えを表に出せるようになったり、全員の考えが一度に見られたりと、メリットが大きいと聞いています。しかし、ある管理職の方は、「確かによい方法だが、これまで以上に教師の見取る力や判断力が必要になっています。それは、今までは机間指導中に誰がどんな意見をもっているかを確認できましたが、今は瞬時に全員の考えを把握し対応しなければならないんですよ。」と言われ、なるほどと感心してしまいました。

ICT 端末の活用は、授業内だけにとどまらず、家庭学習や家庭との連絡手段、地域の方をはじめ遠隔地との交流など学校外での活用へとその幅はどんどん広がっていきます。その必要性や可能性に合わせて教師も更に研さんが必要となるでしょう。多忙化の解消が求められるとともに、新型コロナウイルス感染症対策が続く中、得意でない方にとっては益々負担になってしまうので、これまで以上に教職員間の協力体制が必要となります。来年度も、試行錯誤の日々が続くと思いますが、未来を生き抜くたくましい児童生徒を育成していくために、ご尽力をお願いします。

総務係 「公務災害について」

利根教育事務所管内における近年の公務災害発生状況をお知らせします。教職員のみなさんが、職務遂行中等のけがを防止し、健康で勤務するための参考としてください。けがは、本人だけでなく家族にとっても大きな負担となります。全教職員で気をつけて、けがや病気の無い明るい職場環境に努めましょう。

利根教育事務所管内の公務災害・通勤災害認定申請件数

年 度	申請件数	内訳件数(平均年齢)	
		小学校	中学校
平成 30 年度	5	2 (49)	3 (55)
令和 元年度	5	2 (47)	3 (47)
令和 2 年度	10	6 (43)	4 (40)
令和 3 年度	9	9 (40)	—

小学校では、体育の授業中や教室移動の際のけがが、中学校では、部活動中の示範によるけがが多く見られます。近年、増加傾向にあり、2学期から3学期にかけて多くなっていますので、特に注意しましょう。



H次長

学校教育係 先進プログラミング教育実践推進校「大河原小学校」の挑戦

小学校では、令和2年度から学習指導要領に基づきプログラミング教育が実施され、各学校で工夫して取り組んでいます。昭和村立大河原小学校では、令和2年度から3か年にわたり、「先進プログラミング教育実践推進校」として全教育活動の中でプログラミング教育を推進しており、その概要を紹介します。



本校は、令和2年度に指定を受けたことにより、児童にとってプログラミング的思考などの情報活用能力を確実に身に付けさせるには、教育課程のどこにプログラミングを体験する場面を位置付けていくかを考えました。そこで、昭和村の未来を見据え、農業について学習していた総合的な学習の時間を中心にカリキュラム・マネジメントをすることにしました。

プログラミング教育の目標 ～昭和村の未来を担う子どもたちの育成～

各教科等におけるプログラミングを体験する学習

算数科	5年生	正多角形の作図
理科	6年生	電気の利用（センサーを使った発光ダイオードの制御）
生活科1・2年生		総合的な学習の時間につなげるためのプログラミング遊び
総合	3～6年生	探究的な活動に位置付けたプログラミングの作成

生活科・総合的な学習の時間【年間指導計画より】

小学校においては、プログラミング体験をしながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な『論理的に考えていく力』を育成することが大切です。プログラミングのよさや、コンピュータをはじめとする情報技術が生活や社会を支えていることを実感させていこうとしていますね。



指導主事

【プログラミングを位置付けた学習（単元名）】

【プログラミングを体験する活動】

生活科

1.2年生

「きれいなはなをさかせたい」
「ぐんぐんそだてみんなのやさい」
「あそび名人になろう」

LEDライトの点滅体験
カムロボを使った遊び

※カムロボ
プログラム言語によって動かせる
センサー付きロボット

総合的な学習の時間

3年生

「『野菜王国 昭和村』 無人トラクターを使って無駄のない畑の耕し方を提案しよう」

カムロボを無人トラクターに見立てて走らせるプログラムを作成し、実際にカムロボを動かす活動

4年生

「高齢者が移動に困らない『自動運転の車』を考え、提案しよう」

レゴ教材やカムロボのセンサーを使って、障害物を感知しよけたり止まったりするプログラムを考え、実際に走らせる活動

5年生

「自動で生育環境を調整する栽培用ハウスを考え、リーフレタスを栽培しよう」

温度や水の量、光の強さを管理するプログラムを作成し、リーフレタスを栽培する活動

6年生

「自動制御を使った『未来の農業』を提案しよう」

レゴ教材を使った無人トラクターの活用、温度や水の量を管理した栽培用ハウスといった3年間学習してきたプログラムの改良や、新たにドローンを使った畑の管理なども加え、個人で取組を選択してプログラムを作成・提案する活動



3年生の実践「カムロボのプログラムの作成と動作確認」



総合的な学習の時間を中心に系統的・計画的な教育課程になっており、無理なくプログラミング的思考の育成につながっていますね。そして、体験を通してプログラミング的思考を身に付けさせていくことが教科等のねらいによりよく迫ることにつながるように留意して、教育課程を編成していますね。



指導主事

先進プログラミング教育実践推進校のカリキュラム・マネジメントについて紹介しましたが、管内にはICT活用促進プロジェクトをはじめとして県指定事業校や市町村ごとの授業実践校があり、それぞれの指定等を生かして、児童生徒の生きる力を育成するためにカリキュラム・マネジメントを行っています。年度末に自校の教育課程を再度見直して、各学校や地域の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントをお願いします。